(仮称)水都大阪ビジョン【骨子(案)】1/2

令和２年２月６日（木）
令和元年度第２回
大阪府河川水辺の賑わいづくり審議会

資料
2

目標（水都大阪を将来に渡って引き継いでいくために…）

①歴史と文化に培われた水都大阪を次世代につなぐ　②エンターテインメント性あふれる四季折々のにぎわい空間の創出　③水都大阪の魅力を全世界に発信

〇水都大阪の再生

- ◆ 2001年に「水都大阪の再生」が国の都市再生プロジェクトに採択。
- ◆ 2004年のとんぼりリバーウォーク、2009年の水都大阪シンボルイヤーにオープンした八軒家浜の整備をはじめ、水の回廊沿いの遊歩道、船着場及び橋梁・護岸のライトアップ等のハード整備、水都大阪フェス等のソフト事業を展開し、水都に相応しい水辺を活用した魅力づくりを推進。
- ◆ 規制緩和による河川空間でのにぎわい拠点の創出のため、準則特区として大阪市内８箇所を指定（2011年全国初 八軒家浜）。
- ◆ 北浜テラスをはじめ水辺における取組みは、全国に先駆けた内容で、新しいことに挑戦する姿勢で実施してきており、水辺活性化のトップランナーとして評価を受けている。
- ◆ 2013年からは民主導の都市魅力創造・まちづくりの推進を担う組織である「(一社)水都大阪パートナーズ」が事業を開始(～2017年3月)。

〇水都大阪の成長

- ◆ 水都大阪の再生から成長に向け、2017年に府市経済界からなる官民一体のプラットフォームとして「水都大阪コンソーシアム」を設置。
- ◆ 舟運をはじめ観光メニューの充実や、多彩な魅力空間の形成で水辺のにぎわいを創出するとともに、「水都大阪」ブランドの確立に努める(乗船者数100万人の目標達成)。

（参考）北浜テラス

＜水都大阪の歴史＞

- ◆ 古くは飛鳥時代に難波津と呼ばれた港が、大陸・諸国との交易拠点として栄えた。遣唐使もここより大陸をめざし出港した。
- ◆ 近世には、豊臣秀吉が大阪城築城に併せて東横堀川など数多くの堀川が開削。船場を中心に「水の都」と呼ばれる原形ができ、「天下の台所」を支える重要な役割を担った。
- ◆ 大正後期から昭和初頭にかけて大阪は「大大阪」と呼ばれ、中之島、北浜、船場一帯は、近代大阪の重厚な都市景観を形成した。
- ◆ 戦後は、モータリゼーションの発達で、川や堀が埋め立てられ、多くの橋も撤去された。また、地下水汲み上げにより、低地だった地盤がさらに低下したことで、度重なる水害が発生。対策として防潮堤が設置されたが、コンクリート護岸が水辺と陸を分断したため、人々は水辺への関心を失っていった。
- ◆ さらに、高度経済成長とともに、急速に拡大した経済活動と人口増加により、生活排水や工場排水が河川に流れ込み、水質が悪化したことで、ますます人々の 生活から水辺が遠のいていった。

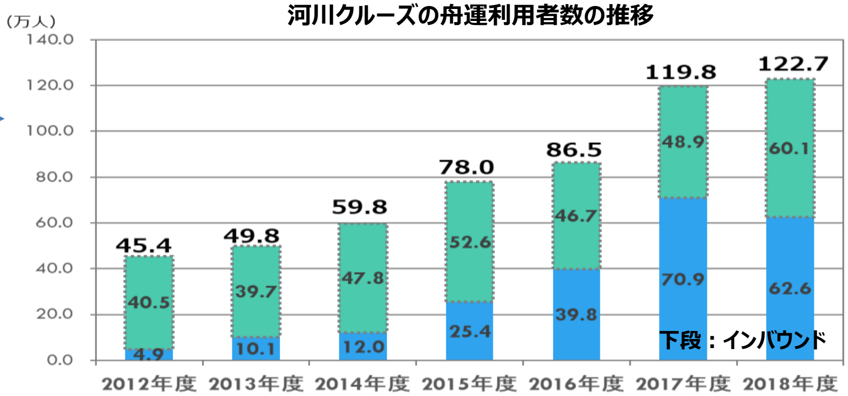
（参考）浪速天満祭 貞秀画 1859年　大阪府立中之島図書館

〇取組みの成果

- ◆ 舟運利用者の2018年度実績(約123万人,うちインバウンドは約63万人)は、2012年度に比べ、約2.7倍(インバウンドは約12.9倍)に増加。
- ◆ 船着場発着回数の2018年度実績(約4.5万回)は、2012年度に比べ、約2.4倍に増加。
- ◆ 近年インバウンドは急増(2018年来阪者約1,142万人)している。

〇更なる成長･飛躍のために

- ◆ 舟運利用者数の増加など ‘量’を求める施策と交通アクセスの利便性向上や安全・安心、エコを意識した「スマート水都大阪」の実現など ‘質’の追求を両立させる。



(仮称)水都大阪ビジョン【骨子(案)】2/2

【水都大阪の将来像】

＜世界に類をみない第一級の水都の創造＞

- **世界の多くの人が水都といえば大阪を思い起こす魅力ある空間の創出**
- **安全・安心、エコを意識した持続可能な水都大阪の確立**

更なる成長 ⇨ 飛躍

基本コンセプト
Ⅰ 舟運のさらなる活性化を推進
Ⅱ 安全・安心な水都大阪
Ⅲ 水辺・水上観光メニューの拡大
Ⅳ 民間ビジネスの創出
Ⅴ ブランディングの強化

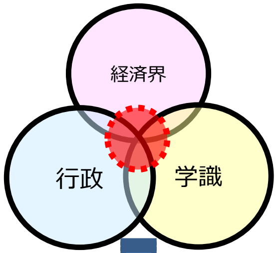
推進方策	
1 回遊性の向上と舟運基盤の充実	多様な航路実現のための基盤整備の充実
2 舟運利用者の増加策と利便性向上	他の交通機関等との接続性向上、待合・案内機能の充実とクルーズ予約システムの構築
3 安全・安心の水都大阪の確立	安全航行の確立に加え、水辺の夜間利用を含む安全・安心対策の充実
4 シンボル空間の創出とにぎわいづくり	水都大阪と言えば思い浮かべるシンボリックな空間の創出とにぎわいづくり
5 各エリアの活性化と主要拠点との回遊性向上	民間ビジネスを活かし、各エリアの魅力と舟運を合わせたつながりを創出
6 ブランディング、広報・プロモーションの充実	水都大阪を象徴する国内外の人々に響く魅力的な風景（キー・スケープ）を発信し、ブランディングにつなげる
7 水の回廊からベイエリア・淀川への拡がり	水の回廊とベイエリア・淀川の水辺拠点を繋ぐ・周遊する日常的なクルーズの充実
8 環境の保全	水辺のごみや騒音を低減し、より親しみやすい空間の創出と舟運のエコ化推進

推進方策を反映

主な取組み	
(１) 水辺拠点のにぎわいづくり	・大阪城港、本町橋BASEの整備 ・新たな船着場や水辺拠点の整備
(２) 水都大阪のシンボル空間の創造	・中之島の開発等と連動した回遊性の向上 ・シンボルモニュメントの整備
(３) 安全な航行ルールの確立	・安全システムの構築 ・安全航行推進体制の充実・強化
(４) 万博に向けたスマート水都大阪の実現	・チケットレス化、ICT・GPSの活用、MaaSの導入 ・新エネルギー船を使ったクルーズの造成 ・川と海の結節点の整備・活用

目標達成に向けた推進体制の検討

- プラットフォーム機能・企画調整機能を備えた水都大阪の専門組織
- 舟運活性化・ブランディング等を、専任で考える組織



めざすべき成長目標

＜概ね2025年度までを目途＞

- **乗船者数300万人**(2018年度 約200万人※含むベイエリア)
- **満足度の向上**

（仮称）水都大阪ビジョン（イメージ図）

目標（水都大阪を将来に渡って引き継いでいくために･･･）
①歴史と文化に培われた水都大阪を次世代につなぐ　②エンターテインメント性あふれる四季折々のにぎわい空間の創出　③水都大阪の魅力を全世界に発信

再生2001年度～

（2001年度）
- 「水都大阪の再生」が都市再生プロジェクトに採択

（2009年度）
- 水都大阪シンボルイベント開催
- 北浜テラスをはじめとしたにぎわい空間づくり

（2012年度）
- 舟運利用者数45.5万人

成長2016年度～

（2016年度）
- 水都大阪コンソーシアム設立

（2017年度）
- 舟運利用者数100万人の目標達成

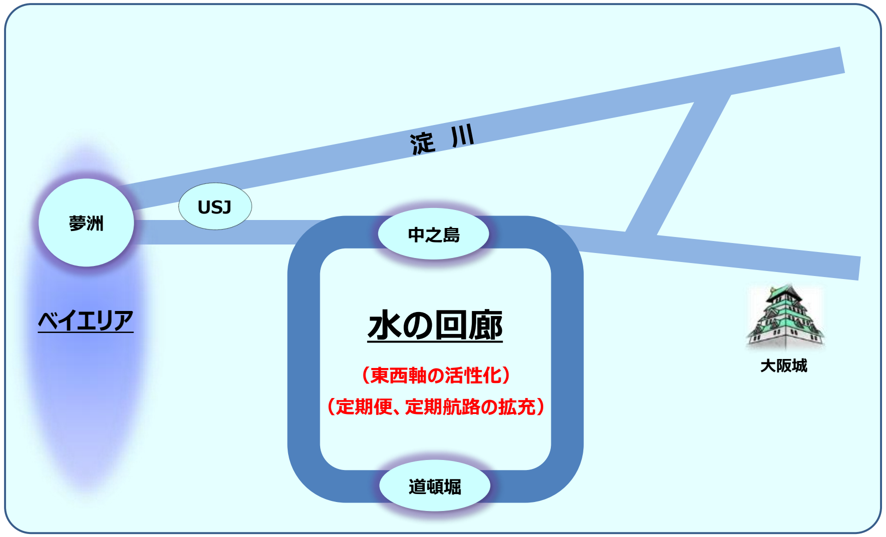
（2018年度）
- 舟運利用者数120万人を突破
＜※約200万人（含むベイエリア）＞

成長から飛躍へ ～2025年度～

【水都大阪の将来像】
＜世界に類をみない第一級の水都の創造＞
●世界の多くの人が水都といえば大阪を思い起こす魅力ある空間の創出
●安全･安心、エコを意識した持続可能な水都大阪の確立

乗船者数 300万人達成に向けて･･･／世界に誇る水都大阪ブランドに向けて･･･

主な取組み	
Ⅰ　水辺拠点のにぎわいづくり	･大阪城港、本町橋BASEの整備 ･新たな船着場や水辺拠点の整備
Ⅱ　水都大阪のシンボル空間の創造	･中之島の開発等と連動した回遊性の向上 ･シンボルモニュメントの整備
Ⅲ　安全な航行ルールの確立	･安全システムの構築 ･安全航行推進体制の充実･強化
Ⅳ　万博に向けたスマート水都大阪の実現	･チケットレス化、ICT･GPSの活用、MaaSの導入 ･新エネルギー船を使ったクルーズの造成 ･川と海の結節点の整備･活用



めざすべき成長目標　＜概ね2025年度までを目途＞
●乗船者数300万人　●満足度の向上